



町書類 管理法統一します

【岩内】町は新年度、公文書をわかりやすく分類するためのファイリングシステムを導入することを決め、関連予算約3千万円を新年度予算案に盛り込んだ。文書をフォルダ(書類入れ)に挟み、キャビネット(書類引き出し)で管理する方式で、町は「資料探しの無駄な時間を減らせるほか、住民への情報公開にも役立つ」と期待している。同システムは担当者個別に書類を簿冊として管理する従来の方式を止め、書類をフォルダに挟んで各課に配置したキャビネットで管理する。「情報公開」や「防災対策」など大まかな分類でキャビネットを分け、中のフォルダに案件名ごとに資料を挟む。フォルダや案件名を書いたラベルの色、配列の順番などのルールを決め、担当者でなくとも書類がどのフォルダにあるかわかるようにする。担当する町総務財政課職員が、すでに導入済みの二セコ町、渡島管内松前町

岩内町「公文書ファイリング」導入

を視察。担当者以外の職員でも30秒以内に書類を探すに驚いたという。

岩内町では予算成立後、専門のコンサルタント会社を選定し、職員の研修を始める。5月から3カ月間かけ、まず総務財政課などの職場から導入。年内に他の課にも広げる。総務財政課の佐藤博樹課長は「対象となる約140人が同じファイリングルールを理解し、実践するのが前提」と話す。

各課の引き出しに分類保存

担当以外も検索容易に

同町は2年後に新庁舎移転を予定しており、これまでにたまった膨大な書類を整理、分類する過程で不要なものを廃棄し、引越しの負担を減らす効果にも期待している。(高橋浩志)



案件ごとに細かく分類されたフォルダが収まっている二セコ町役場のキャビネット。各職員の机周りはPCなどが置かれていたが、